



7 おだ保 023

令和 8 年 2 月

おだ学園保育園通信



今年の北陸地域では、雪の積もる量が多いそうで、大変なご苦労が続いています。

永山地域の子ども達にとっては、日の光を浴びる機会も多く園では毎日「いってきます」と元気よく公園にでかけ、帰ってくると更に元気な声で「ただいま～！」の挨拶が響きわたっています。冷たい空気の中でも元気いっぱいに体を動かし看護師からの手洗い指導など予防にも心掛けながら 2月も毎日たくさんのお見舞を楽しんでいきます。

避難訓練

大きな地震や火事は突然に見舞われます。

園では子ども達の命を守る為に毎月避難訓練を実施し突然の出来事にも必要以上に恐れず、慌てずに対応できるように繰り返しの訓練中で身に付けています。

回を重ねるごとに成長がみられる今回は 10 回目。

0歳と 1歳のご家庭から可愛らしいコメントがあったので、ご紹介させていただきます。

こあら組の U 君

●おはようございます。 昨日の避難訓練、ありがとうございました。夜寝る前に「今日は避難訓練があったの？」と話すと「うん」とうなづいていました。

(0歳児クラスでももう 1歳です。相手の言葉を理解して応えられるようになり就寝時のひと時微笑ましい光景ですね。)

うさぎ組の T さん

●昨夜遊んでいると急に『あつまってください！』と言いながら急いでアンパンマンやメルちゃんを一箇所に集め始めました。最初は何だろうと思っていたのですが、避難訓練をしたことを思い出して『避難訓練？』と聞くと『かじです、かじです』と言っていました。覚えていたことを褒めると『OOちゃんがね、ないちゃってともみ先生にだっこしてもらったの』とおまけの報告もくれました笑

(1歳児クラスの人たちもそろそろみんなが 2歳になっています。自分が経験した出来事をしっかりと記憶し、ご家庭で再現している姿が目に浮かび嬉しい成長の一コマですね)

子どもの育ち

もうすぐ一年間の締めくくりです。乳幼児期の子どもたちは目に見えないほどの小さな一歩を、確かに積み重ねてきました。

抱っこで安心していた子が、自分の足で歩き始めたり、

言葉にならない声が「伝えたい思い」へと変わったり、

保育者のまなざしの中で少しずつ「自分でやってみよう」とする姿が増えてきました。

乳幼児期の成長は、できることが増えること以上に、**「心が育つこと」**が大きな意味を持っています。



- ・安心できる大人がそばにいること

- ・受け止めてもらえる経験を重ねること

- ・失敗してもまた挑戦できること

その積み重ねが、子どもたちの「生きる力」の土台になっていきます。

この時期の子どもたちは、進級に向けて心が揺れ動きやすくなる時期もあります。

甘えや不安な姿が見られることもありますが、それは成長の大切な過程です。園では一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、安心して春を迎えるよう関わってまいります。

ご家庭でも、できしたことよりも「大きくなったね」「ここまで育ったね」と歩んできた時間そのものを一緒に振り返っていただけたら嬉しく思います。

